

# 福岡県鉱工業指数の基準改定について

平成 20 年 11 月 26 日

福岡県企画・地域振興部調査統計課

## 1 改定の趣旨

政府及び関係機関で作成する主要経済指標としての各種経済指数については、相互間の比較利用を容易にするため、「指数の基準時は、原則として5年ごとに更新することとし、西暦年の末尾が0または5の付く年とする」(昭和56年3月20日統計審議会答申)とされている。

本県では、県内の鉱工業活動を表す指標として鉱工業指数を毎月作成しているが、この答申に基づき、基準年次を平成12年(2000年)から平成17年(2005年)に改定した。

また、前回の改定時から変化した本県の産業構造を踏まえ、指数のよりいっそうの精度向上等を図る観点から、採用品目の見直し、ウエイトの算定等を行った。

## 2 改定する指数系列・期間

平成17年基準に改定するのは、現在公表している、生産指数(付加価値額ウエイト)、出荷指数、在庫指数の3系列で、平成15年1月分まで遡及して作成する。

今後の鉱工業指数の作成・公表は、次期基準(平成22年基準)が策定される平成25年秋頃まで、平成17年基準が利用されることになる。

## 3 改定の主な内容

### (1) 基準及び品目ウエイトの算定年次変更

指数の基準及び品目の算定年次を現行の平成12年から平成17年に変更する。これにより各指数値は、平成12年の平均値を100.0とした比率から、平成17年の平均値を100.0とした比率で表されるものに変更される。

### (2) 採用品目の見直し

工業統計調査、経済産業省生産動態統計調査、福岡県生産動態統計調査をベースに、平成12年(前回基準年)と比較して生産が伸びてきた品目を新たに採用し、逆に生産が減少した品目を非採用とした。

#### 〈主な新規採用品目〉

普通鋼冷間仕上鋼材、貯蔵槽、フラットパネルディスプレイ製造装置 等

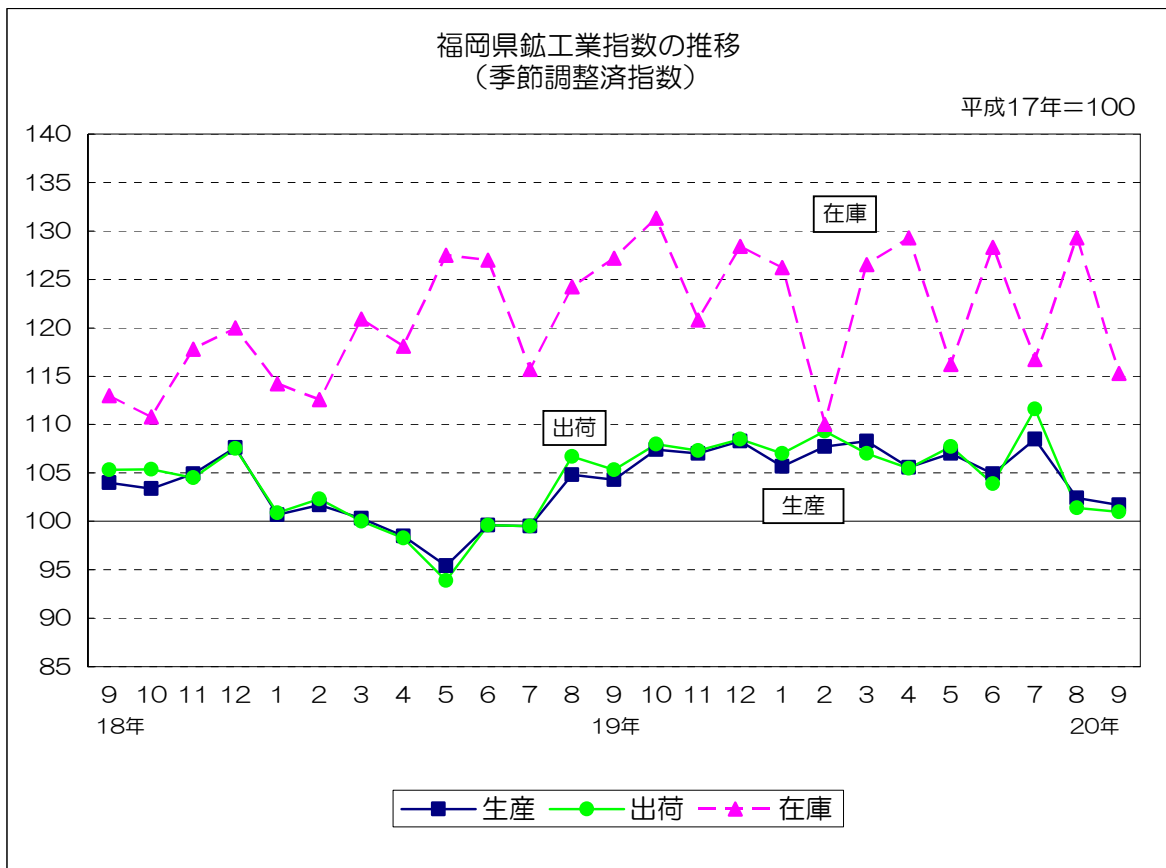
#### 〈主な非採用品目〉

整地機械、金銭登録機、タオル 等

平成17年基準

# 福岡県鋳工業指数月報

(平成20年9月)



## 平成20年9月の鉱工業指数

### 概 況

- 平成20年9月の鉱工業指数（季節調整済）は、生産が前月比0.7%の下落、出荷が同0.4%の下落、在庫が同10.8%の下落となった。
- (1) 生産  
 季節調整済指数 : 101.7で前月比0.7%減（2か月連続のマイナス）  
 原指数 : 104.6で前年同月比0.1%減（2か月連続のマイナス）
- (2) 出荷  
 季節調整済指数 : 101.0で前月比0.4%減（2か月連続のマイナス）  
 原指数 : 105.0で前年同月比1.3%減（2か月連続のマイナス）
- (3) 在庫  
 季節調整済指数 : 115.3で前月比10.8%減（2か月ぶりのマイナス）  
 原指数 : 117.5で前年同月比8.5%減（4か月ぶりのマイナス）
- 前月比（季節調整済）
- |           |        |       |      |
|-----------|--------|-------|------|
|           | [上昇]   | [横ばい] | [下落] |
| 生産（18業種中） | : 12業種 | 0業種   | 6業種  |
| 出荷（18業種中） | : 8業種  | 0業種   | 10業種 |
| 在庫（18業種中） | : 9業種  | 0業種   | 9業種  |

### (1) 九州・全国との比較

（平成17年=100）

		季節調整済指数		原 指 数	
			前月比%		前年同月比%
福岡県	生産	101.7	▲ 0.7	104.6	▲ 0.1
	出荷	101.0	▲ 0.4	105.0	▲ 1.3
	在庫	115.3	▲ 10.8	117.5	▲ 8.5
九州	生産	108.9	1.1	112.7	0.1
	出荷	107.5	0.9	112.4	▲ 1.7
	在庫	111.2	1.1	110.2	11.5
全国	生産	105.8	1.2	110.0	0.4
	出荷	105.3	0.4	111.2	▲ 0.6
	在庫	107.5	1.9	104.8	3.1

### (2) 前月比（季節調整済）での上昇下落業種（生産指数のみ）

上昇に寄与した業種	下落に寄与した業種
一般機械工業 電気機械工業 輸送機械工業 鉄鋼業 パルプ・紙・紙加工品工業 家具工業 非鉄金属工業 ゴム製品工業 木材・木製品工業 繊維工業 プラスチック製品工業 石油・石炭製品工業	金属製品工業 化学工業 食料品・たばこ工業 窯業・土石製品工業 電子部品・デバイス工業 鉱業

## 四半期別指数の動向

### 平成20年7～9月期の概況

○ 今期の鉱工業指数（季節調整済）は、生産が前期比1.5%の下落、出荷が同0.9%の下落、在庫が同3.4%の下落となった。

(1) 生産

季節調整済指数 : 104.2で前期比1.5%減（3期連続）  
原指数 : 103.4で前年同期比1.9%増（5期連続）

(2) 出荷

季節調整済指数 : 104.7で前期比0.9%減（3期連続）  
原指数 : 103.0で前年同期比1.6%増（5期連続）

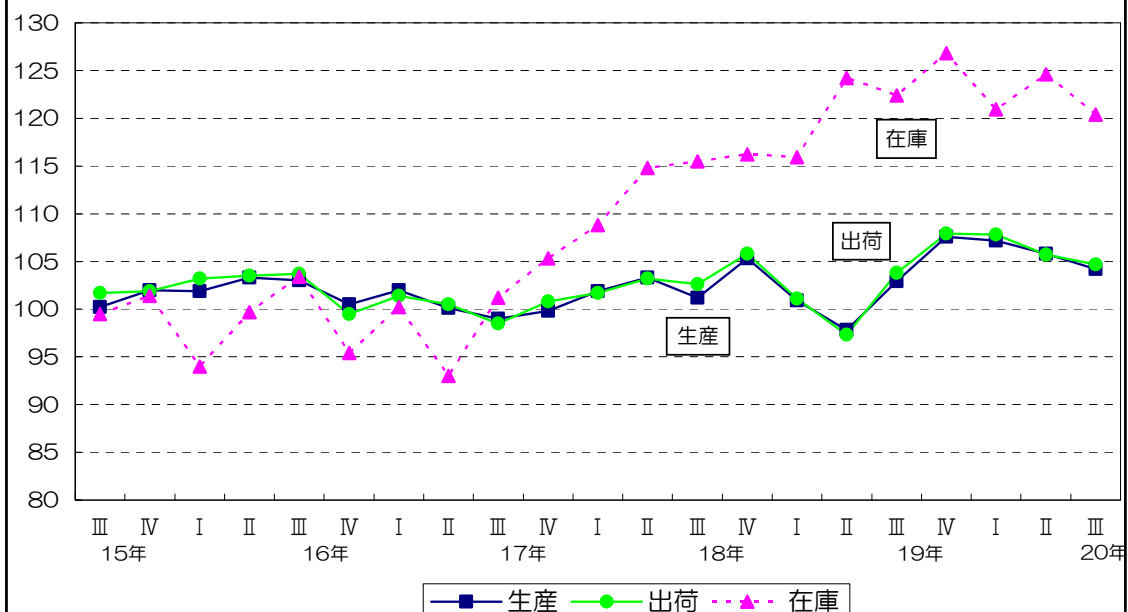
(3) 在庫

季節調整済指数 : 120.4で前期比3.4%減（2期ぶり）  
原指数 : 122.9で前年同期比1.4%減（12期ぶり）

平成17年=100

		生 産		出 荷		在 庫	
		季節調整済 指数	前期比 (%)	季節調整済 指数	前期比 (%)	季節調整済 指数	前期比 (%)
19年	7～9月期	102.9	5.2	103.8	6.7	122.4	▲ 1.4
	10～12月期	107.6	4.6	107.9	3.9	126.8	3.6
20年	1～3月期	107.2	▲ 0.4	107.8	▲ 0.1	120.9	▲ 4.7
	4～6月期	105.8	▲ 1.3	105.7	▲ 1.9	124.6	3.1
	7～9月期	104.2	▲ 1.5	104.7	▲ 0.9	120.4	▲ 3.4
		原指数	前年同期比 (%)	原指数	前年同期比 (%)	原指数	前年同期比 (%)
19年	7～9月期	101.5	1.5	101.4	0.9	124.6	5.7
	10～12月期	110.4	3.3	111.9	3.4	126.8	9.3
20年	1～3月期	108.0	6.9	108.9	7.1	119.2	5.1
	4～6月期	105.0	8.6	104.4	9.2	124.6	0.2
	7～9月期	103.4	1.9	103.0	1.6	122.9	▲ 1.4

四半期別指数の推移(季節調整済指数)



全業種・主要9業種の動向  
(20年9月)

○ 全業種の動向

- (1) 生産指数は101.7(季節調整済)となり、前月と比べると一般機械工業や電気機械工業などが上昇したが、金属製品工業や化学工業などが下落したため、総合では前月比0.7%の下落(前年同月比0.1%の下落)となった。
- (2) 出荷指数は101.0(季節調整済)となり、前月と比べると一般機械工業や輸送機械工業などが上昇したが、金属製品工業や食料品・たばこ工業などが下落したため、総合では前月比0.4%の下落(前年同月比1.3%の下落)となった。
- (3) 在庫指数は115.3(季節調整済)となり、前月と比べると化学工業や鉄鋼業などが上昇したが、輸送機械工業や電子部品・デバイス工業などが下落したため、総合では前月比10.8%の下落(前年同月比8.5%の下落)となった。

○ 主要9業種の動向

[生産]

業種	前月比 (%)	前年同月比 (%)	上昇または下落に寄与した主な品目(前月比)
鉄鋼	1.8	▲ 6.1	特殊鋼熱間圧延鋼材、めっき鋼材、鋳鉄
金属製品	▲ 22.4	13.8	粉末冶金製品、鉄骨、ドラム缶
一般機械	6.2	7.8	クレーン、送風機、冷凍・空調用冷却塔
電気機械	7.1	6.0	変圧器、電力変換装置、電力量計
電子・デバイス	▲ 3.7	▲ 10.2	計数回路、線形回路、トランジスタ
輸送機械	0.9	▲ 2.2	自動車部品、小型自動車、自動車車体
窯業・土石製品	▲ 5.4	▲ 4.2	セメント、生コンクリート、耐火煉瓦
化学	▲ 4.6	15.9	ビスフェノールA、カプロラクタム、トルイレンジイソシアネート
食料品・たばこ	▲ 3.1	▲ 3.0	固形カレー、パン、菓子
総合	▲ 0.7	▲ 0.1	—

[出荷]

業種	前月比 (%)	前年同月比 (%)	上昇または下落に寄与した主な品目(前月比)
鉄鋼	▲ 0.3	▲ 14.2	軌条、特殊鋼冷間仕上鋼材、冷延電気鋼帯
金属製品	▲ 20.7	10.0	粉末冶金製品、鉄骨、ドラム缶
一般機械	19.0	8.4	クレーン、ショベル系掘削機(油圧式)、送風機
電気機械	12.1	10.7	電力量計、変圧器、電力変換装置
電子・デバイス	▲ 3.3	▲ 11.9	計数回路、線形回路、トランジスタ
輸送機械	2.3	▲ 2.0	自動車部品、普通自動車、自動車車体
窯業・土石製品	1.2	5.0	耐火煉瓦、セメント、ファインセラミックス
化学	▲ 2.8	7.5	ポリカーボネート、ビスフェノールA、複合肥料
食料品・たばこ	▲ 7.1	▲ 2.7	ビール、パン、固形カレー
総合	▲ 0.4	▲ 1.3	—

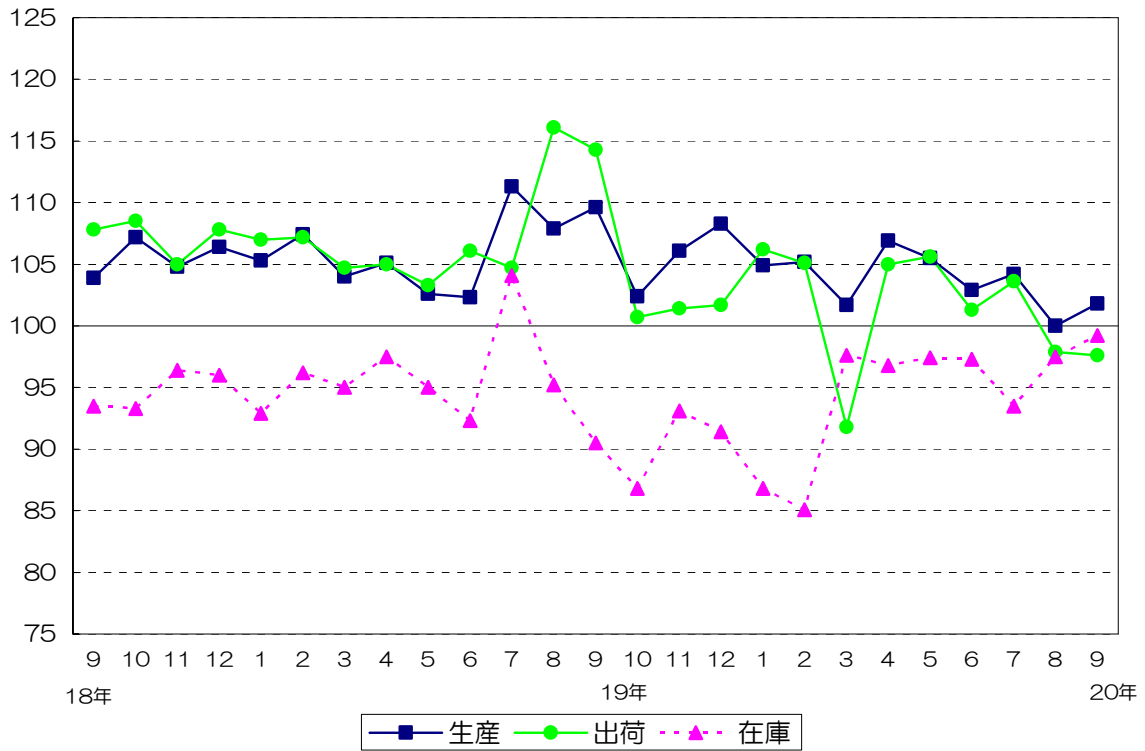
[在庫]

業種	前月比 (%)	前年同月比 (%)	上昇または下落に寄与した主な品目(前月比)
鉄鋼	1.7	10.1	特殊鋼冷間仕上鋼材、特殊鋼熱間圧延鋼材、めっき鋼材
金属製品	3.3	13.2	飲料用缶、ガス湯沸器、ガス炊飯器
一般機械	▲ 4.2	22.3	ショベル系掘削機(油圧式)、鉄鋼用ロール、補器
電気機械	▲ 34.7	▲ 30.6	電力量計、食器洗い乾燥機、電気温水器
電子・デバイス	▲ 60.6	—	線形回路、計数回路
輸送機械	▲ 44.4	▲ 49.3	普通自動車、小型自動車
窯業・土石製品	▲ 1.2	▲ 2.2	耐火煉瓦、遠心力鉄筋コンクリート製品、セメント
化学	3.9	34.4	複合肥料、ポリカーボネート、ジフェニルメタンジイソシアネート
食料品・たばこ	1.0	7.5	砂糖、その他の調味料、焼酎
総合	▲ 10.8	▲ 8.5	—

(注) 前月比は季節調整済指数、前年同月比は原指数による。

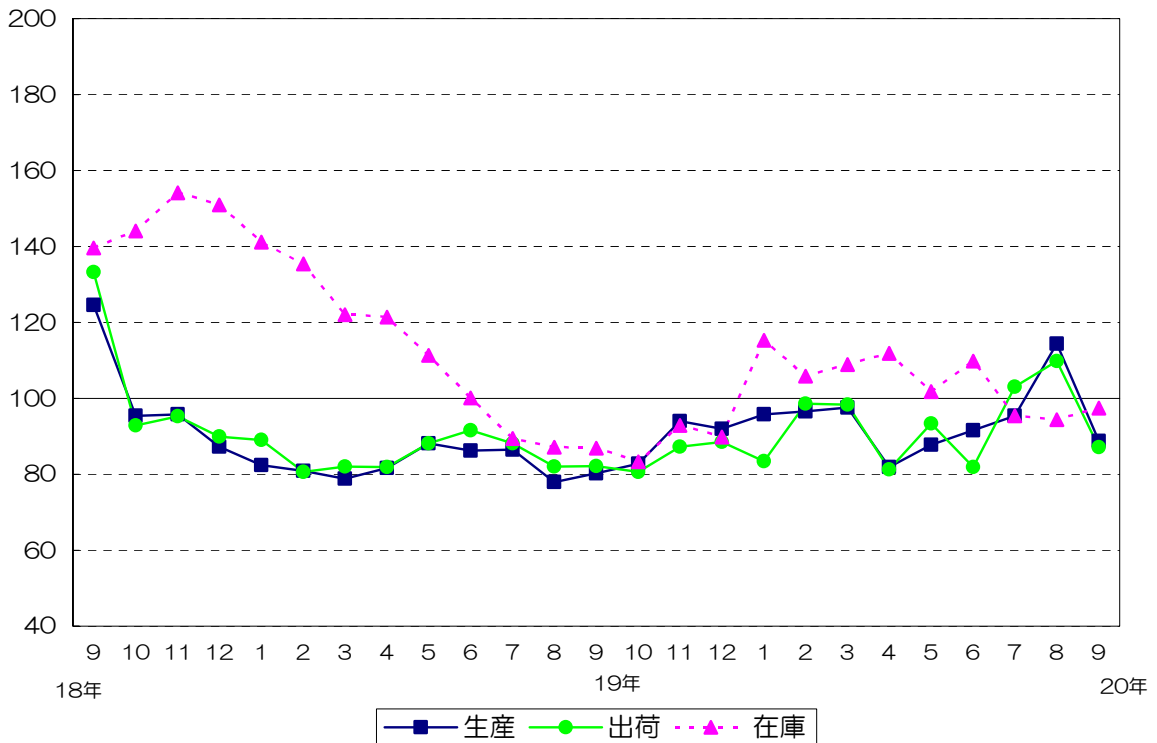
鉄鋼業（季節調整済指数）

平成17年=100



金属製品工業（季節調整済指数）

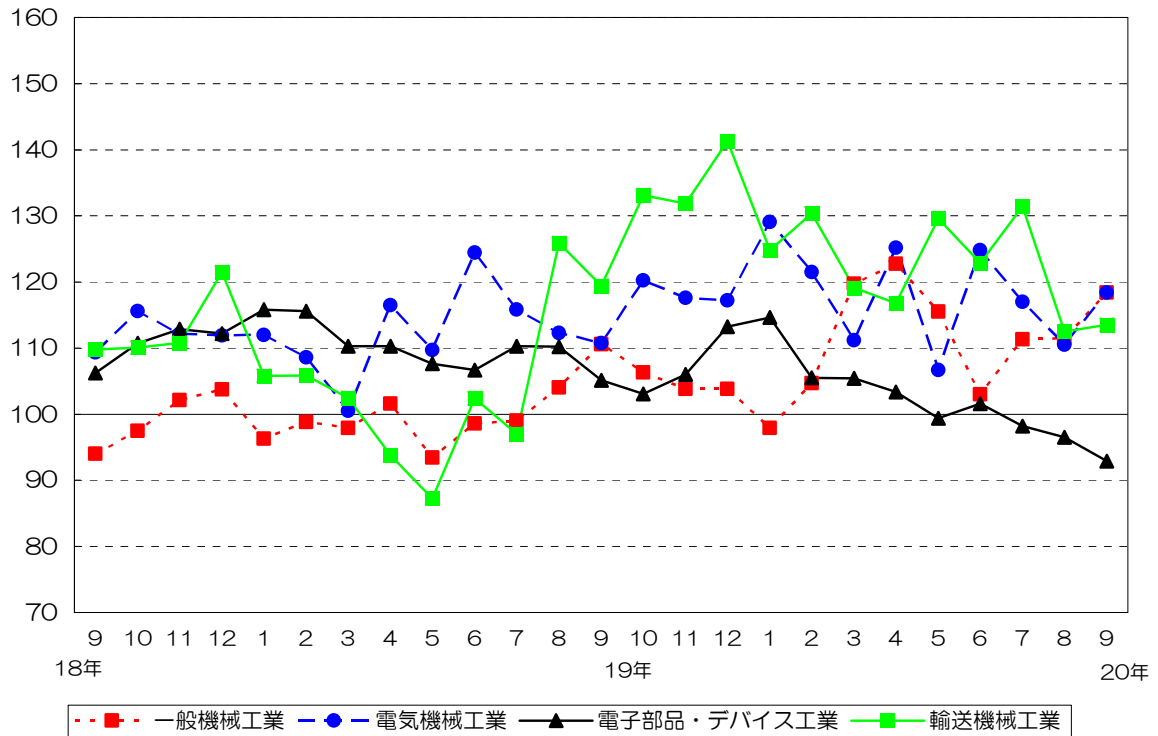
平成17年=100



機械工業（季節調整済指数）

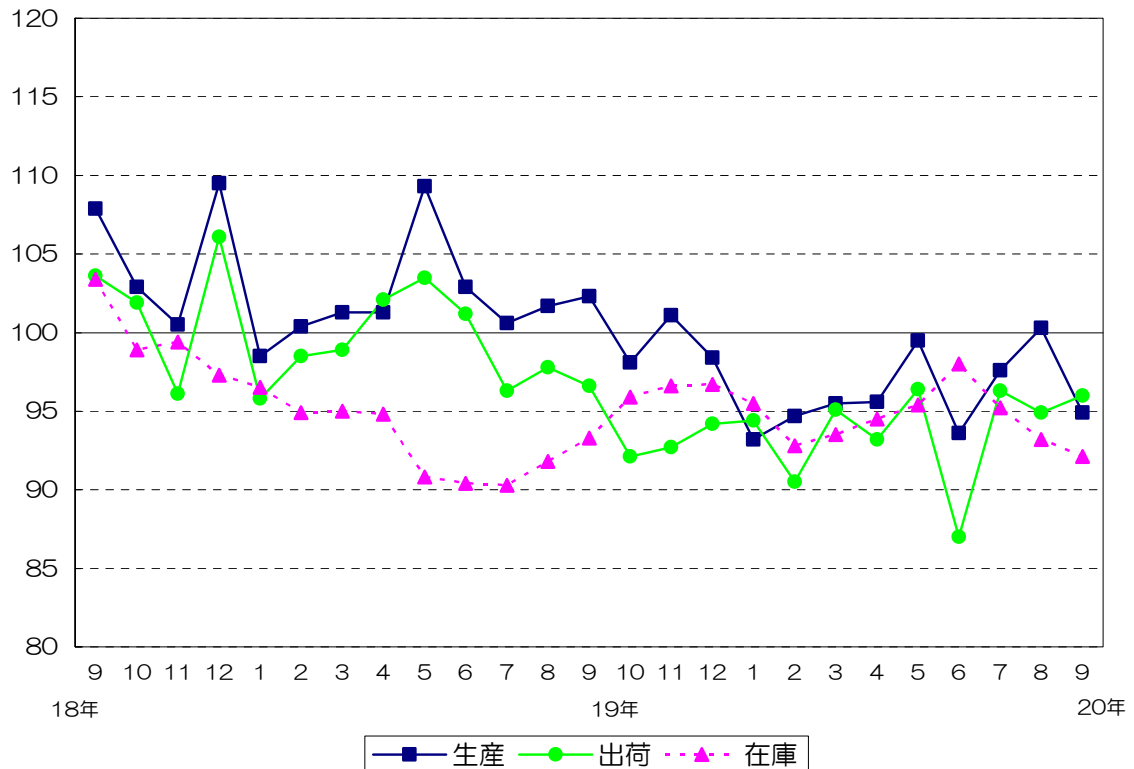
\*生産指数のみ。

平成17年=100



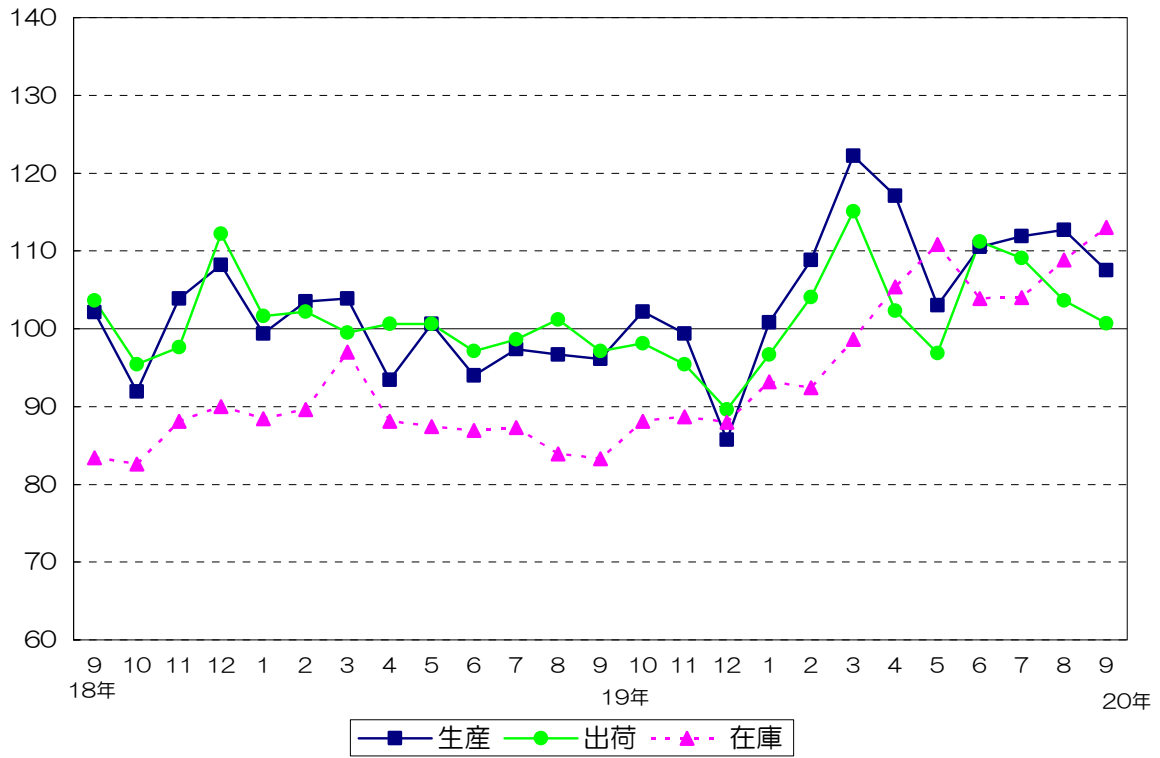
窯業・土石製品工業（季節調整済指数）

平成17年=100



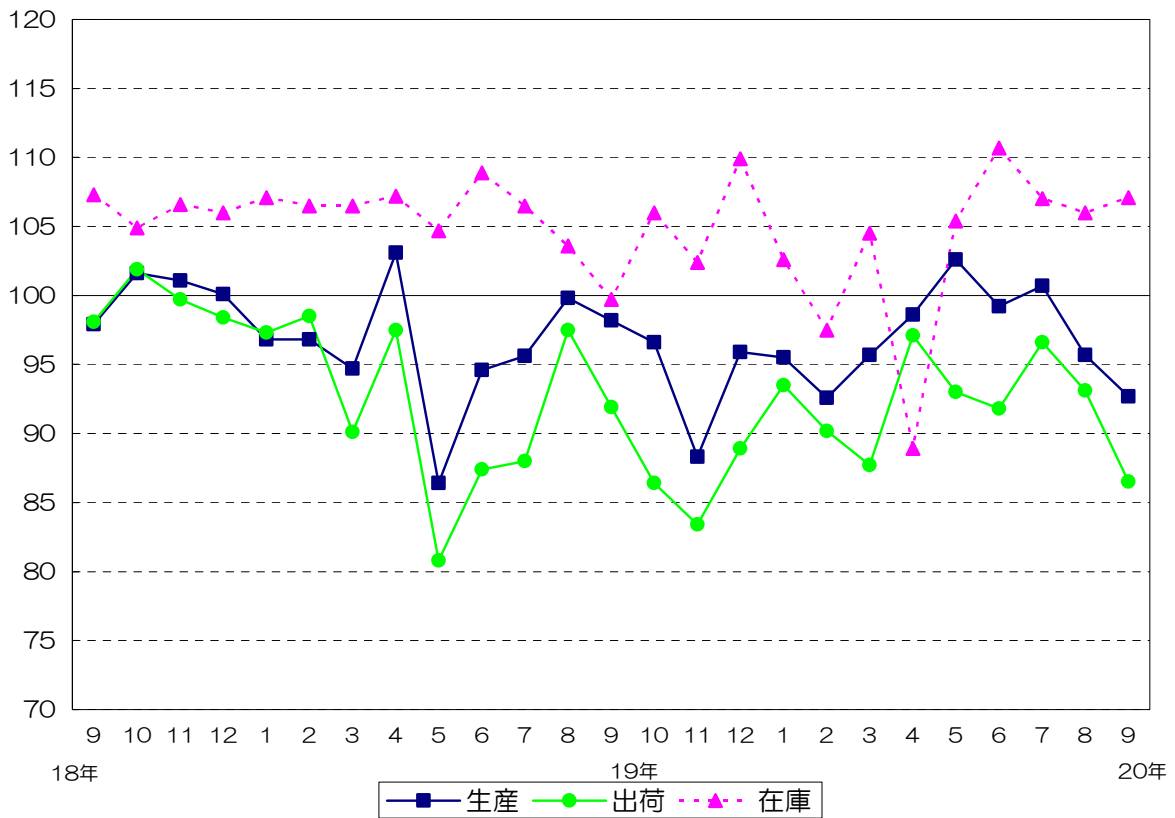
化学工業（季節調整済指数）

平成17年=100



食品・たばこ工業（季節調整済指数）

平成17年=100

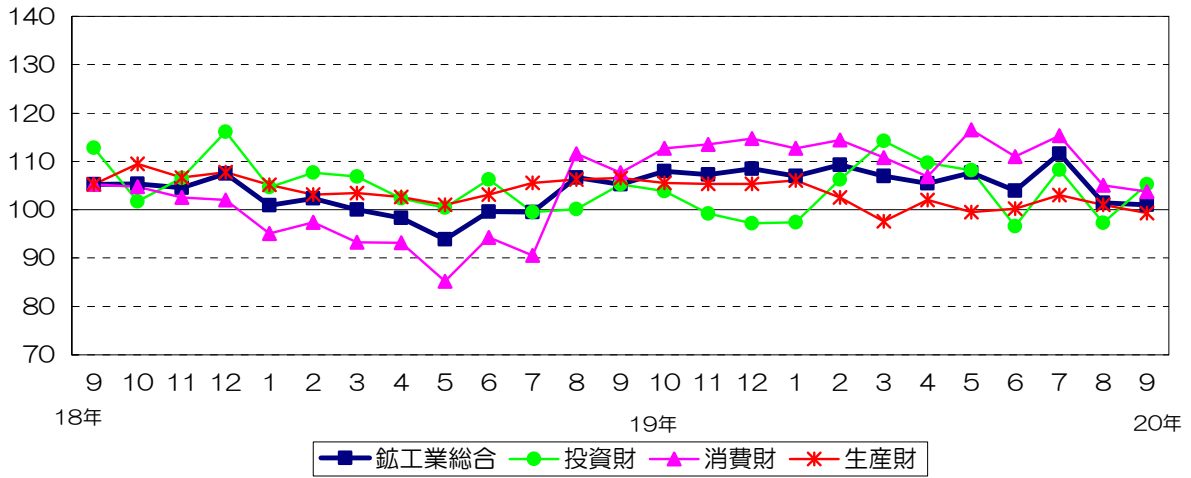




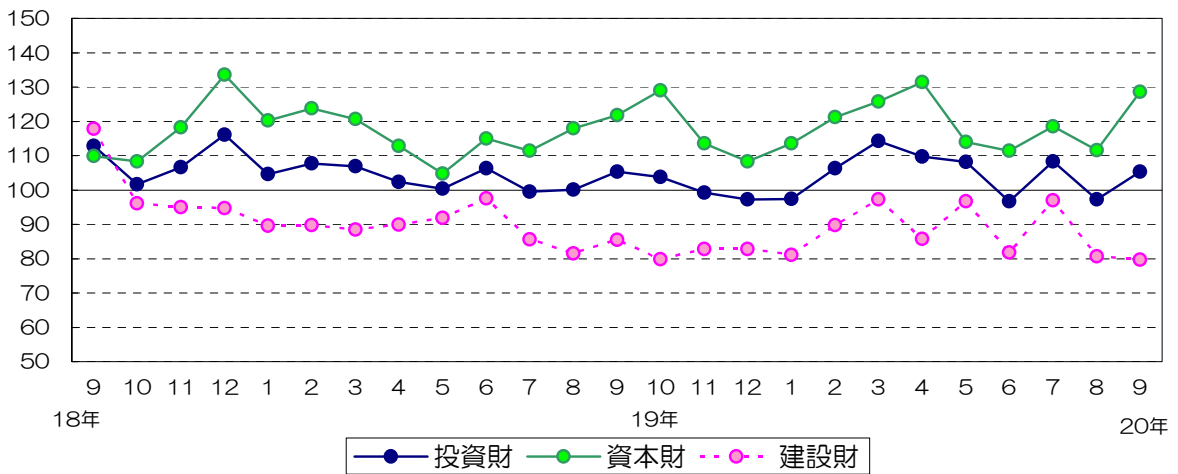
# 福岡県鉱工業出荷指数財別の推移（季節調整済指数）

平成17年=100

## 鉱工業総合



## 投資財



## 消費財

